



刻歩極頂

長井市立西根小学校
学校だより第7号
令和5年7月26日

「刻歩極頂」（こくほきょくちょう） 一步一步の歩みを大切に 頂上にたどり着く
長井市初代名誉市民 孫田 秀春 博士 揮毫

学校・家庭・地域が機能した1学期、成長を2学期につなぐ

明後日で1学期が終了になります。保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。この1学期を振り返り、成果を一言で表すと、「学校・家庭・地域が機能する中で子供たちは成長した」といえると思います。主な成果を書き出してみます。

葉山登山、天候と行程的にはきつい面もあったと思いますが、どの学年もほぼ予定通りに実施できました。5・6年生（初の勸進代コース）には関係機関と地域の方々のご協力、例年以上に手厚い準備で実施できました。

また、様々な見学学習での話の聞き方や質問など、学ぶ姿勢を褒められることが多くありました。

学習ボランティア、図書ボランティア、J A青年部をはじめ、日頃から学習や環境を支えてくださる方々のご支援のもと、順調に学習活動が進みました。校舎裏の草刈りにもご協力いただきました。

山形県交通安全自転車大会で西根小チームは2連覇、8月9日（水）の全国大会へ出場を決めました。

何年ぶりでしょう。年間で「月の歌」を選曲し、各学級で朝から歌声が聞こえるようになりました。

感染症での欠席が最低限に抑えられました。各家庭での健康管理、大事をとる等、ていねいな対応をしていただいたと感謝しています。本校児童のむし歯の少なさも、各家庭での取組の成果だと思います。

親睦が深まったPTAバレーボール大会、懇親会を行った学年もあったとお聞きしました。保護者の輪がいつそう広がったことを喜びたいと思います。

安全パトロール隊、25名の方々を確認し、再スタートさせていただきました。これからも無理のない範囲で、見守っていただきたく、よろしく願いいたします。

これらの成果を2学期のよいスタートにつなげていきたいと考えております。2学期も本校の教育活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

なかよし広場の看板設置、ありがとうございました

「なかよし広場」の看板が新しくなりました。

デザインもたいへん美しく、裏面を見れば「なかよし広場」の沿革も分かる、素晴らしい看板です。「昭和59年7月22日竣工」「平成12～13年度改修工事」「令和2年度改修工事」の沿革を見ながら、当時の話をする地域の方々、旧職員とも会話が弾みます。いつそう元気な西根っ子の成長を支えていくことと思います。

令和4年度卒業生保護者の皆様、西根地区教育振興会様、誠にありがとうございました。



8月の予定

1	火	プール開放日	11	金	山の日	21	月	
2	水	プール開放日	12	土		22	火	
3	木	プール開放日	13	日		23	水	
4	金		14	月		24	木	P執行部会
5	土		15	火		25	金	委員会活動
6	日		16	水		26	土	P6学年行事
7	月		17	木		27	日	西根地区体育祭
8	火		18	金	2学期始業式	28	月	
9	水	交通安全自転車全国大会	19	土		29	火	Pにこここあいさつ運動
10	木	閑庁(～16日)	20	日		30	水	
						31	木	学校運営協議会

<どうぞよい夏休みを>

- 7/29(土)～8/17(木)は、夏季休業です。閉庁期間(8/10、14、15、16)の緊急連絡は、長井市教育委員会学校教育課(82-8024)へお願いいたします。なお、(8/11、12、13)連絡は、n.nishinesyou@gmail.comへお願いいたします。8月18日(金)の2学期始業式に、みんな元気に会えますように。
- 夏休み中も自転車に乗る時はヘルメット着用です。ご指導をよろしくお願いいたします。

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために(その12)

手伝いは家族を結びつけます

たとえば、テーブルをふくこと、ごはんやみそしるをよそうこと、あるいは庭をはくこと、お風呂を沸かすこと、洗濯物をたたんで分類し、それぞれの棚にしまうことなどは、大人がやっても子どもがやってもまったく同じ能率、同じ作業、同じ出来映えです。

このような仕事を子どもが手伝ってくれば親は本当に助かります。子どもの働きに感謝し、ありがたく思うことでしょう。親が子どもに感謝する、子どもが親から感謝されるということは、とてもすばらしいことです。手伝いを通してそのような感情が親子の間に通うようになります。

子どもに家事その他の仕事も手伝わせようとしないうちの風潮は、確かに子どもを労働から解放しはしましたが、反面、親子のきずなを弱いものにし、親子の感情の交流を薄いものにしてはいないでしょうか。手伝いをさせないということが、必ずしも子どもにとっても親にとってもプラスではなく、かえって親と離れる子どもを作ることになってはいないでしょうか。ゆっくりとふり返って考えてみたいことです。

『優しく鍛える—自立をめざす子育て—』(野口芳宏著、明治図書)

千葉大学附属小学校等で活躍された国語科教育と家庭教育の第一人者である野口先生の著作で、私(校長)は若い頃、この本を読みました。そして、私も子育てをするようになり、下線部に特に共感を持ちました。楽しいイベントに親子で出かけて楽しかった、お金をかけて親子で楽しいことをした、確かにそれらも素晴らしい親子の感情交流だと思います。しかし、野口先生と同様に、私も手伝いを通じた親子の感情交流を大切にしたいと考えています。我が家では、ジャガイモの植え付け、ハクサイやコマツナ等の種まき(老眼のため助かります)、施肥、収穫、草むしり、玄関掃除、側溝の泥上げ、障子紙の貼り替え、親戚等への礼状書き。本当に助かるので、アイスを食べながら子ども達は大いに褒められますが、中学校になると忙しくてなかなか大変。小学生のうちがいい時期なのかなと思います。

